令和二年度　お茶の水女子大学　文教育学部
推薦入試　帰国子女・外国学校出身者特別入試
高大連携特別入試　試験問題　人文科学科

※哲学・倫理学・美術史プログラムを志望する者は、【問題1】を、
比較歴史学プログラムを志望する者は、【問題2】を、
地理環境学プログラムを志望する者は、【問題3】を、
それぞれ解答しなさい。

令和二年度 お茶の水女子大学
推薦入試 帰国子女・外国学校出身者特別入試 高大連携特別入試 試験問題
文教育学部 人文科学科（哲学・倫理学・美術史プログラム）小論文

【問題1】次の文章は、展示もまたひとつの「作品」であり、決して中立なものではなく、何らかの「視線」に基づいていると述べている。文章の内容を踏まえ、問一、問二に答えなさい。

美術館、博物館、資料館、歴史館などを、ここでは一括してミュージアムと呼ぶ。ここでいうミュージアムとは、「何らかのモノを展示し、また文字情報を記したパネルなどを併せて展示し、それらの相乗効果によって生まれる何らかのメッセージを、そこに集まってきた人々（観者、見る者）に向けて発信しようとする施設」のことである。ミュージアムに展示されるモノは、一般に、観者の目に訴える何か、つまり視覚的存在ということになる。

モノ（展示品）は、それが自然物であれ人工物であれ、何らかの目的のもとに集められ、展示場に設置される。モノが自分で動いて、勝手に集まってきたわけではない。したがって、何を、なぜ、集めたのか、それをなぜ、そこに――たとえば、モノAの隣ではなくモノBの隣に、あるいは、入り口近くではなく中央の展示室に――置いたのか、なぜ、それにそのような光を当てたのか、なぜ、そのような内容の解説文をパネルに書いたのか、なぜ、モノAを展示し、モノBを展示しなかったのか、など、すべての「なぜ」に答える責任は、学芸員にある。すなわちミュージアム展示とは、ある目的をもって学芸員たちが作り上げた、一個の「作品」なのである。それは、学術論文や小説や音楽や演劇や、あるいはインターネット上のホームページと同じく、「作品」である。

とはいえ、ふつう、ミュージアム展示は、誰かの「作品」であると思われてはいない。ミュージアムを訪れる者は、そこが「客観的」な空間であることを、無意識の前提としているように見える。だが実際には、どのような立場からも等距離に身を置く、透明で中立的な展示など存在しない。中立を装った展示は、その社会を統括する既成のイデオロギーや価値観に、忠実に従った展示であるに過ぎない。

……（中略）……

「ミュージアム展示とは『作品』である」という解釈は、あまり一般的なものではないかもしれない。だがそれが一般的ではない理由は、ミュージアムの目的やメッセージが、多くの場合には巧みに隠蔽されているからである。私たちは、ミュージアムを、無色透明な、中立的な施設だと思い込まされてきた。

そこが美術系のミュージアム（いわゆる美術館）なら、展示品の価値は、絶対的な基準によってすでに判定済みだと信じられている。普遍的な価値をもつ美術作品だから、あるいは国宝だから、それは必然的に選ばれてここに展示されたのだ、というわけである。歴史系のミュージアムなら、訪問者は、唯一の歴史的事実が存在することを信じており、その事実を多くの人間にわかりやすく展示するのがミュージアムだと思っているであろう。民族学系・民俗学系のミュージアム（いわゆる郷土資料館などをふくむ）なら、そこには、ある民族やある地域のもっともオーセンティックな（真正な、本物の）伝統や習俗が目に見えるかたちで展示されているはずだ、ということになる。

つまり、美術や歴史や民族・民俗の枠組みはすでに定められており、それらをめぐる大きな物語もミュージアムの外側に、あらかじめ存在しているということである。ミュージアムの展示場で、美術や歴史や民俗について根本的な疑問をさしはさむということは、通常はまず起こらない。大きな物語は、自分がその中にいると意識することすら不可能なほど深く、人の心に根を下ろしているからである。それはすでにその社会の枠組みであり、イデオロギーとなっている。その社会の内部で安定した生活を営んでいる人々にとって、自分たちが共有する大きな物語の中にすっぽり包み込まれることは、心地よい体験である。多くの人間がミュージアムを訪れる理由は、自分がこの誇らしい国や社会や価値共同体の内部の一員であることを、確認したいためなのかもしれない。あるいは、子どもたちにそれを確認させ、教育したいためなのかもしれない。

しかしミュージアムを訪れた者が、その社会の枠組みから外側にはじかれた人間である場合には、また事情が異なってくる。訪問者は、そこで前提とされている美術や歴史や民族の定義そのものに、違和感を覚えるであろう。おそらく多くの日本人にとって、そうした違和感を味わう絶好の機会は、欧米の歴史系・民族系のミュージアムを訪れ、そこで「日本」展示と出会うことであろう。たとえばニューヨークのアメリカ自然史博物館へ行くと、現代の日本で暮らす人間にはなんとも不思議な「真正の日本」展示に出会う。ある展示ケースの中には、直衣（のうし）に冠姿の男性の人形と、髪を結い上げ、江戸時代風のキモノを着て琴を弾く女性の人形、そして藁で作った簑笠（みのかさ）をまとい、雪国風の装束に身をかためた等身大の人形が、三体まとめて展示されている。女性はおそらく、ゲイシャに見えるであろう。また、日本刀の刀身や鐔（つば）や鞘（さや）などが展示されたケースには、バックパネルに、甲冑に身をかためた武士が刀を振りかざし、こちらへ向かって斬りつけてくるような絵が描かれている。なかなか迫力のある絵であるために、観者は鐔や鞘を見るのを忘れて、ついその絵の方を見てしまう。残酷で野蛮なサムライ、というステレオタイプが、みごとに造形化されたバックパネルである。さらに、別の壁に掛けられた能面には、スポットライトが当たったり暗転したり、という工夫が凝らされている。異文化展示・他者展示に通有の、劇的で神秘的な演出が行われているわけである。現在の米国とはまったく違う不思議な文化伝統をもつ「日本」、過去に属する「日本」、荒々しく攻撃的な「日本」が、ここには展示されている。

この自然史博物館は、マンハッタンの中央に建てられた、年間二〇〇万人が入場するという巨大ミュージアムである。入り口にあるルーズベルト大統領の銅像は、堂々と馬に乗った大統領の左右に、型どおりの羽根飾りを頭につけたネイティヴ・アメリカン、ほとんど裸のアフリカン・アメリカンをひとりずつ従えた、現在のアメリカ合衆国にはどう考えてもふさわしくないような代物である。また内部の展示にもきわめて問題が多い。ここにはジオラマが多用され、自然のなかで生きる動物の剝製がいかにも「本物」らしい装いで展示されている。またそれら剝製哺乳動物の展示室の隣には、その地域に住む人々の展示室があり、人形を使って、日々の生活の様子を示している。アフリカの哺乳動物、アジアの人々、という順番で見ていくうちに、観者は一瞬、この人形も人間の剝製なのではないか、というおぞましい錯覚に捉えられる。

このミュージアムには、世界各地の「事実」が展示されているわけではない。ここで私たちが目にするものは、展示された側の地域や民族ではなく、それをそのように展示した側、そのように見たかった者たちの、権力に満ちた「視線」なのである。

一九八〇年代から、視覚理論や美術理論の深化が進んだ結果、批評用語としての「視線」、すなわち「権力によって作り上げられたヴィジョン」についても、一般的な理解が深まってきたように思われる。そして、視覚表象の読み解きにも、一八〇度と言ってもよいほどの大きな方向転換が行われることになった。いまや視覚表象は、表象された側よりも、むしろ、それをそのように表象した側・表象させた側の、欲望や意思や熱意の表明である、と捉えられるようになったのである。

……（中略）……

このように考える時、一九世紀に完成し、その後の増改築を経て現在にいたったニューヨークの自然史博物館の展示は、まさしく、代々の米国人が世界をどう見てきたか、どう見たかったか、ということを私たちに伝えてくれる、貴重な情報だということになる。「日本」をどのように扱うか、という彼らの物語の枠組みはあらかじめ決まっており、それに合致する視覚資料が選び出されている。その枠組みを効果的に見せるため、ここには男女の等身大の人形が設置され、サムライの絵像までがバックパネルになって参加している。日本から収集した視覚資料、新たに作った視覚表象を総動員して、ここには、彼らにとっての「日本」が構成され、展示されているのである。それはいわば、彼らの「作品」である。

「作品」としての「日本」、あるいは「作品」としての「他者」に出会うことは、欧米のミュージアムでは珍しくない。たとえばパリのギメ美術館やアフリカ・オセアニア美術館で、ベルリンの東洋美術館で、ロンドンの人類博物館で、ライデンの民族学博物館で、私たちはそのような「作品」に出会う。薄暗い展示場で、スポットライトを当てられたアジアやアフリカや、オセアニアや中南米のモノたちは、演出された神秘性やエキゾチシズムを漂わせながら、観者の視線にさらされている。いかに美しく演出されていようとも、その展示に込められた「他者を眺める視線」を、私は、ある痛みの感覚を抜きに受け止めることはできない。これは決して、欧米のミュージアムの学芸員に対する非難なのではない。私の友人知人たちを

ふくめて、ミュージアムの人々が誠実に活動していることを、私はよく知っている。私はただ、私たちの生きている社会が今でも不均衡な力関係の中に置かれていること、そして、一見すると中立に見えるミュージアム展示といえどもそのような力関係から逃れることはできないのだということを、ミュージアムの学芸員も知らなければならない、と考えているだけである。展示する側と展示される側が、互いの立場を認識し合った後にようやく、話し合いの可能性が生まれてくる。まずは「日本」という「作品」が、どこに、どのように展示されているのか、それを冷静に見ていく必要がある。

出典：千野香織「戦争と植民地の展示――ミュージアムの中の「日本」」
（栗原彬他編『越境する知１　身体――よみがえる』東京大学出版会、二〇〇〇年）より
一部を抜粋し、改変を施した。

※この文章は二〇〇〇年に発表されたものであり、展示の情報などは当時のものである。

問一　傍線部「不均衡な力関係」について二〇〇字以内で説明しなさい。

問二　この文章が提示している内容についてあなたはどのように思うか、具体的な事例を挙げて六〇〇字以内で論じなさい。

令和二年度　お茶の水女子大学　文教育学部
推薦入試　帰国子女・外国学校出身者特別入試
高大連携特別入試　試験問題　人文科学科（比較歴史学プログラム）　小論文

【問題2】次の文章を読み、**問一**、**問二**に答えなさい。

中国のある新聞の日付欄は「二〇〇七年十一月十五日星期四　十月初六」となっている。中国では、漢の武帝のときに年号を使用して以来、一九一一年の辛亥革命まで年号によって年が数えられてきた。翌一九一二年からは西暦が使われている。歴史的に重要なことは、西暦の導入により漢の武帝以来二〇〇〇年にわたって使われつづけてきた年号が廃止となったことである。

星期は曜日の意で、星期一は月曜日、星期二は火曜日として土曜日まで数字を加え、日曜日は星期日とする。年月日および曜日の呼称にかんするかぎり、中国は世界の国々と同一歩調をとることになった。

「十月初六」（十月六日）とあるのは、旧暦の月日である。旧暦の一月一日は、西暦の一月二十二日から二月十九日ころまでを毎年移動する。中国では現在でも正月のお祝いは旧暦の一月一日におこなう。そのお祝いは春節と呼ばれる。

新暦文化（ヨーロッパ文化）というが、その組み合わせ方は中国と日本でずいぶん異なる。日本でもかつては旧暦の正月を祝っていたが、今ではすっかり姿を消してしまった。中国では旧暦にもとづいて現在でも人々の生活がいとなまれている。

日本は西暦を受け入れ、正月は新暦の一月一日に祝うこととし、旧暦でおこなわれていた新年の儀式のほとんどを西暦に移してしまった。その一方で年号という東アジアの伝統的な年の数え方は維持している。この年号を維持しているからこそ、新聞の紙面に踊る環

境元年・情報元年といった日本独特の表現が受け入れられているのである。

韓国のある新聞の日付欄は「檀君四三四一年（陰暦八月十九日）二〇〇八年九月十八日木曜日」となっている。私がもっとも興味を引かれるのは、陰暦（旧暦）、西暦とともに檀君紀年が記されていることである。檀君紀年とは、檀君（朝鮮神話に出てくる最初の王）が即位したとされる紀元前二三三三年を檀君元年とする年の数え方である。自国のアイデンティティを歴史文化のなかで表現する年月日の記述は、世界史における時間の考察に重要なヒントを与えてくれる。

このように年月日だけを考えてみても各国の歴史と伝統文化にもとづいた人間生活のいとなみがあらわれていて、国際化とかグローバル化という一言ではかたづけられないものがある。国際化とかグローバル化ということはその国の伝統文化を前提として、国によりさまざまな形態がある。それぞれの国固有の伝統文化の存在なしに、国際化もグローバル化もありえない。このことを理解していないと、それこそわれわれは国際化に乗り遅れてしまうことになる。

出典：佐藤正幸『世界史における時間』（山川出版社、二〇〇九年）。引用にあたり、省略・改変したところがある。

問一

傍線部は、具体的にどういうことか。本文に即して述べなさい（二〇〇字以内）。

問二

「世界史における〇〇」というテーマで異なる地域あるいは集団（国家・民族など）の間にみられる差異を比較して論じなさい（六〇〇字以内）。

令和二年度　お茶の水女子大学
推薦入試　帰国子女・外国学校出身者特別入試　高大連携特別入試　試験問題
文教育学部　人文科学科（地理環境学プログラム）　小論文

【問題3】　次の文章は、近年の日本における人口移動の特徴ならびに東京一極集中への対応の難しさについて述べている。この文章を読み、問一と問二に答えなさい。

故郷の年老いた親を呼び寄せている

現時点での人々の動きを確認するにあたってまず注目したいのが、東京一極集中だ。政府の歯止め策も空しく、むしろ拡大し続けている。

総務省の「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（２０１８年１月１日現在）」によれば、２０１７年に日本人住民が増加したのは、７万２１３７人増となった東京都をはじめ、埼玉県（４２４７人増）、神奈川県（３２４０人増）、沖縄県（２９１４人増）、千葉県（２７６４人増）、愛知県（１５０７人増）の６都県のみで、沖縄県と愛知県以外はすべて東京圏（東京、神奈川、埼玉、千葉）である。

東京一極集中の実態については、「住民基本台帳人口移動報告（２０１８年結果）」がさらに詳しくまとめているが、２０１８年の東京圏は、転入者が転出者を１３万９８６８人上回る転入超過となった（日本人に限れば２３年連続）。その数は前年より１万４３３８人多い。一方で全国の自治体の７２・１％は人口流出であり、各地から東京圏へと集まっている状況が浮き彫りとなっている。

これを年代別に分析すると、予想通り若い世代が東京圏に集まっていることが明確になる。日本人に限って調べると、２０～２４歳が最も多く７万４９９６人、次いで１５～１９歳が２万６８６３人、２５～２９歳の２万３５６１人だ。進学や就職を機に東京圏に住み始め、故郷に戻らない若者は多い。

男女別に見てみると、２０～２４歳は男性３万３４８１人、女性は４万１５１５人と女性のほうが上回っている。１５～２４歳の総数で見ても男性が４万７３７０人、女性が５万４４８９人だ。多くの若い女性が「東京」を目指して集まってきている状況を裏付ける。

若い女性たちの意識もさることながら、背景には高速交通網の発達やインターネットなどの通信の普及によって、帰省や家族との連絡が格段に便利になったこともある。親たちにとって、遠く離れた「東京」へと娘を送り出すことについてのハードルが低くなったということだ。

ところで、これまであまり取り上げられることがなかったが、若者の一極集中とともに注目すべき点がある。５０代後半から７０代前半までは転出超過となっているものの、７５歳以降で再び転入超過へと転じているのだ。８５～８９歳の転入超過は１１５６人を数える。地方から移り住んだ若い世代が、故郷の年老いた親を呼び寄せていることをうかがわせる数字と言えよう。今後、東京圏内での高齢化が予想されるが、これに拍車をかける動きだ。

どこの道府県が送り出し元か？

話を若い世代の一極集中に戻そう。若い人が東京圏に出たまま戻らないということは、地方において子供を産むことができる若い女性が減るということでもある。結果として、地方の出生数は減っていく。

国勢調査をもとに２０００年と２０１５年を比べると、地方圏における１５～２９歳人口は１８３１万人から１２９９万人へと３割近く減った。これに伴って、出生数も８９万人が７２万人へと約２割減少している。地域差が拡大する２つの要因は、密接に関連して

いるのである。

では、どこの道府県が送り出し元になっているのだろうか？

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部（以下、創生本部）が、２０１７年の数字をさまざまな角度から分析しているのでこれをたどってみよう。東京圏への転出超過の絶対数で比較すると、一番多いのは大阪府の１万６５７人である。次いで兵庫県（７３５６人）、愛知県（７１６４人）と大都市圏を構成する府県が続く。以下、北海道（６７５０人）、福岡県（５８１０人）、新潟県（５６３１人）、静岡県（５３６８人）、宮城県（５３５７人）と政令指定都市のある県が並ぶ。

各道府県人口に占める「東京圏への転出超過」の割合で捉え直してみると、１位は青森県の０・２８５％となる。以下、福島県（０・２４２％）、宮城県（０・２３３％）、新潟県（０・２５８％）、山梨県（０・２４６％）、岩手県（０・２０５％）、秋田県（０・２２３％）、山形県（０・１９３％）、栃木県（０・１６５％）と、東北や北関東の県が上位に顔を出す。

県の人口規模が小さいので、絶対数こそ多いとはいえないが、これらのエリアが東京圏の人口を支える役割を果たしていると言ってもよい数字だ。

一方、東京圏への一極集中の流れを市町村別に見ると、トップは仙台市の３５０２人で、以下、３４４４人の大阪市、札幌市（３０８２人）、名古屋市（２９３６人）の順だ。創生本部の資料が東京圏への転入超過数の多い都市を一覧にしているが、政令指定都市が上位にずらりと並ぶ。県庁所在地や地域経済の中心となっている中核市などが続き、２０１７年は上位６３市で転入超過数の半数を占める。

政令指定都市は人口規模も大きいため、転出超過の絶対数も大きくなるのは当然のことだが、ここには一つのからくりもある。小規模自治体の場合、直接東京圏へと向かう人は少なく、まずはこうした県内の大規模都市に流れているのだ。県内の大規模都市に移ってから東京圏へと向かう“ワンクッション組”も、上位６３市からの転入超過数に相当数含まれていることだろう。

ちなみに東京圏を除いた各道府県から、東京圏以外のところへの転出入超過数を見ると、一番多く人を集めているのが福岡県で６３８８人である。これに続くのは愛知県４８３９人、大阪府の２９６１人だ。これら３府県は東京圏へ流出しているものの、一方で他の道府県から人を集めている。

就職先を東京に求める女性の増大

なぜ、若い人々は東京圏に集まるのだろうか？

若者にとって、刺激の多い大都会はいつの時代にあっても魅力的だ。働く場所も多い。「住民基本台帳人口移動報告（２０１８年結果）」から２０～２４歳を取り出してみると、転入超過数のトップは茨城県の４７９６人だ。以下、福岡県（４１１６人）、北海道（３９９７人）、大阪府（３９０４人）といった大都市を抱える道府県が続くが、ベスト１０にはトップの茨城県だけでなく、新潟県、静岡県、福島県、長野県、栃木県といった東京圏の周辺県が名を連ねている。

東京圏の学校に進学し、出身地に戻らない若者が少なくないことは先述したが、こうした状況に加えて人手不足となった企業が、東京圏に出やすい周辺県の大学や専門学校などの学生たちを確保すべく働きかけを強めていることも背景にある。

先に、女性のほうが転入超過数は多いことを紹介したが、これらのデータを併せて考えると、地方から東京圏に仕事を求めて出てくる女性の増大が、一極集中の流れを押し上げているということになる。

「就業構造基本調査」（２０１７年）で、男性より女性に人気の高い職種をカテゴリー別に見ると「医療、福祉」「宿泊業、飲食サービス業」「生活関連サービス業、娯楽業」「教育、学習支援業」「金融業、保険業」「卸売業、小売業」となっており、第三次産業が中心だ。

国勢調査（２０１５年）によれば、第三次産業への就業者比率は全国平均が７１・０％

なのに対し、東京都は81・9%である。第三次産業への就職を希望する女性たちにとっては、地元で探すよりもサービス産業が集積する東京都のほうが、自分にあった就職先を選びやすいということだろう。

こうした産業構造を無視して、「地方創生」を声高に叫んでみたところで、東京一極集中の流れは止められない。

先にも述べたように、若い女性が東京に流出してしまった地方は出生数の増やしようがなくなる。こうしてますます、人口の地域偏在が拡大していくのだ。

私は、東京一極集中は是正されたほうがよいと考える。東京圏は地方が生み出す食料やエネルギーを前提として成り立っているからだ。地方が極端に衰退したならば、東京圏の暮らしは成り立たなくなり、いつの日か東京圏は息の根を止められることになる。

だが、東京一極集中は簡単には歯止めがかけられない現実が横たわっている。少子高齢化、人口減少のスピードが速まってきたことを考えると、一極集中の是正に追われている間に、地方の人口減少対策や東京圏内の高齢者数の増大といった課題への対応が手遅れになったのでは、日本社会は壊滅的な打撃を被る。

そうである以上、もはや一極集中を前提として人口減少時代を考えなければなるまい。

人口減少日本の中において、東京圏を全く違う歩みを辿る「外国」と位置づけ、非東京圏の各エリアは人口が減っても成り立つ仕組みへ転換することで、共存する道を探っていくほうが現実的だろう。

困難な道かもしれないが、それが非東京圏の生き残り策となる。

出典：河合雅司『未来の地図帳　人口減少日本で各地に起きること』講談社、二〇一九年。
（一部改変があります）

問一　近年の東京圏を基軸とする人口移動の特徴について、本文の内容に基づいて二〇〇字以内で答えなさい。

問二　著者は、これからの非東京圏のあり方について傍線部のことを提唱するが、果たして可能だろうか？
どのような取組みや条件があれば可能となるか。逆に不可能と考える場合には、それはなぜなのか。本文を参考にしながら、自分の考えを六〇〇字以内で論じなさい。

令和二年度　お茶の水女子大学　文教育学部
推薦入試　高大連携特別入試　試験問題
言語文化学科（日本語・日本文学プログラム）

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

人類とは、常習的に直立二足歩行する大型類人猿の仲間である。大型類人猿には、オランウータン、ゴリラ、チンパンジーが含まれるが、人類にもっとも近縁な現生生物はチンパンジーである。チンパンジーと人類は、およそ六〇〇万年前に分岐して別の進化の道をたどり始めた。現生の大型類人猿がすべて、アジア・アフリカの熱帯降雨林にのみ生息する絶滅危惧種であるのに対し、ヒトは世界中に拡散して七〇億以上の人口をかかえている。この違いはどこから来るのだろうか？　もちろん、その答えは、私たちヒトが持つ大きな脳にある。しかし、では、脳のどんな能力がこの生物学的大成功をもたらしたのだろうか？　その主要な原因の一つが、ヒトの持つ驚くべき社会性である。

行動の進化を探究する行動生態学では、社会行動が個体にもたらす適応度上の利益と損失により、行動を分類している。適応度とは、ある行動を行う個体の生存率と繁殖率を掛け合わせたものであり、定義上、その行動によって自らの適応度が上昇するような行動は進化する。それでは、自らの適応度が下がるが、行動の受け手の適応度が上がる行動、すなわち利他行動は進化するだろうか？

そこで、発達心理学者が研究を始めた。ヒトの子どもはいつごろから、どのようにして他者を助けようとするのだろうか？　実験の結果、他者が目的を達成しようとしてできない場面を見て、その解決方法が理解できるとき、非常に小さな子どもでも、自ら進んでその他者を助けることがわかった。たとえば、母親の膝にすわっている二歳児が、大きな荷物をかかえた実験者が部屋に入ってきて、戸棚の扉を開けようとするが開けられない、という事態を観察すると、二歳児は母親の膝からおりて、扉を開けてあげるのである。

他者の心の状態を理解するという意味での「心の理論」については、以前から多くの研究が行われてきた。他者の心は、つかみとって見てみることができない。他者の心は推測せねばならず、それにはそもそも、他者に「心」があることを想定しなくてはならない。

霊長類学者の山本真也らは、飼育のチンパンジー二頭に対し、各自の状況では使い道のない道具をそれぞれに与え、どのような行動が見られるかを観察した。すなわち、あるチンパンジーには、ジュースを飲むためのストローはあるが、ジュースの容器自体は手の届かないところにある。一方、その隣のチンパンジーには、ジュースの容器はどこにもないが、長いステッキが手元にある、という状況である。ステッキを持っているチンパンジーにとっては、ステッキは何の役にも立たない。しかし、隣のチンパンジーにそれを渡してあげれば、隣はそれでジュースの容器を引き寄せてジュースを飲むことができる。さて、彼らはどうするだろう?

ほとんどの場合、ステッキを持っているチンパンジーは、ジュースの容器を取ろうと苦労して手を伸ばしている隣人に対してステッキをあげようとはしなかった。しかし、一旦、隣のチンパンジーが「ステッキをよこせ」という明確なサインを出したなら、彼らは躊躇(ちゅうちょ)せずにそれを差し出したのである。山本らはこの行動を「チンパンジーはおせっかいをしない」と表現しているが、改めて「おせっかい」とは何かを考えさせて妙である。

「おせっかい」をするには、シグナルがなくても他者の要求をあらかじめ理解するのみならず、他者がそれを理解していることをも理解しなければならない。「あなた、ステッキ欲しいんでしょ。それは言わなくてもわかるわよ。私、持ってるけど、いらないからあげるわね」ということなのだ。そしてステッキを差し出してくれるその行為を、相手が、「ありがたい、私の気持ちを察してくれて」と感じるならば、それは「おせっかい」ではない。「別にそこまでしてくれなくてもいいんだけど」と思うときがおせっかいなのだ。そこには、両者の間に、「私があなたの気持ちを理解しているということを、あなたは理解している、ということを私は理解している」、という理解の入れ子構造が存在する。チンパンジーには、それがないらしい。「私はあなたの気持ちが理解できる」、それだけなのだろう。だから、シグナルがなければステッキをあげないし、シグナルを出さない限り、ステッキをくれなくても怒ることもない。

言語とは、このような入れ子構造の心の理解の上に成り立っているコミュニケーションである。言語は決して、「あっちへ行け」、「これ欲しい」といった、他者を動かすための単なる記号ではない。他者に「心」があることを承知した上で、自分と相手の「心」どうしを共有しようとするコミュニケーションである。

このことは、ヒトの言語コミュニケーションの多くが、世界についての描写であり、その描写を共有しようとするものであることからもうかがえる。「お空青いね」、「ピンクのお花が咲いてる」、「あ、○○ちゃんがいるよ」、「今日は寒い」などというコミュニケーションは、発信者

による世界の描写、発信者の「心」が世界をどう捉えているかの描写である。それに対して、「そうだね」という応答が普通は返されるのだが、それは、その心象が共有されていることの承認だろう。それが、ヒトにとっては実に心地よいことなのである。

言葉を覚え始めたばかりの乳幼児は、そんな論理など何も理解していないにもかかわらず、「あ、ワンワン」と言って「そうね、ワンワン可愛いわね」と言われると喜ぶのである。チンパンジーはこのようなことはしない。言葉を教えられたチンパンジーにおいて、彼らが自発的に発する言葉の九〇パーセント以上は、物の要求であり、世界の描写ではないのである。つまり、彼らは言葉を、世界の描写による心の共有に使っているのではなく、自分の要求をかなえるための信号として使っているのである。

このような「心」の共有があるからこそ、ヒトは言語を持ち、文化を作り、世代を超えて改良しながら伝えていくことができるのである。

霊長類のほとんどの種は、社会集団を作って暮らしている。ヒトが社会集団を作ることは、この霊長類の進化の延長上にある。しかし、人類進化のいつかの時点で、ヒトの祖先は、単に群れを作っているだけではなく、個体どうしが「心」を共有することを始めた。ヒトの「心」は、他者の情動を我が事のように受け取るばかりでなく、他者の状況を理解し、他者の感情に共感することができる。

ヒトは因果関係の推論ができ、物事が「なぜ」そうなっているのかを解明する。それによって、道具製作など、物理的な世界に関する問題解決の方法を発明し、改良していくことができる。それと同時に、認知的共感があるおかげで、他者の置かれている状況を理解し、その状況が起きている因果関係も推論し、それを改良する方法も探ることができる。つまり、社会的な問題解決をはかることもできるのである。

ヒトが自分の「心」にある心象を言語で表現し、それを他者と共有することは、世界に対する認識を互いに了解することだ。認識が異なることがわかると、了解が得られるまで話し合うことができる。それは、物理的な問題に対しても、社会的な問題に対しても行える。それによって技術は進歩し、社会は改良されていく。このような能力に裏打ちされたヒトの社会性が、ヒトという動物を繁栄させているもっとも重要な要因だと言えるだろう。

（長谷川眞理子『世界は美しくて不思議に満ちている』による）

問一　チンパンジーなど他の大型類人猿の言葉と人間の言葉との違いはどこにあると筆者は説明しているか、要点をまとめよ。

問二　世界を描いた他者の言葉に共感した経験、または、世界を描いた自身の言葉に相手が共感したと思えた経験（両方でも可）にふれながら、筆者の考えに対する自身の意見を、四〇〇字程度で述べよ。

（問題以上。答案用紙のみ提出のこと）

令和二年度　お茶の水女子大学　文教育学部

推薦入試　帰国子女・外国学校出身者特別入試　高大連携特別入試　試験問題

言語文化学科（中国語圏言語文化プログラム）

◎以下の文章を読んで、設問に答えなさい。

朝日新聞の「朝日歌壇」によく登場する人に、元中学教師の黄得龍さん（七〇）＝台北市＝がいる。

・日本人次は中国人そのあとは国籍不明に吾古希となる
・植民記を子の知らぬ字で書き終えて焼かるる日を待つ本棚に置く
・その昔吾を兵にせし国に来て親しみ覚ゆる不思議を思う

どの歌も、日本という国に振り回された人生を静かに歌い、日本人読者にとっても身につまされる。が、黄さんの青春は「親日」への道のりではなかった。

師範学校に進んでうろたえた。「目が曲がって気にいらん」「口が引き締まっていない」。日本人上級生の鉄拳が飛んできた。

当時、師範学校生には公費支給があった。日本人学生は一七円。台湾人学生は一七円。日本人名に改称した台湾人学生が「なぜ一七円か」と口にしたら、「貴様、台湾の歴史は四十年、日本は二千六百年。同等でたまるか」と周囲の台湾人にまで鉄拳の雨である。

黄さんは三年で中退し、旧制国民中学校に転学した。

ただ小学校五、六年の担任「久松栄先生」は、当時の「荒い」といわれる日本人の中で不思議と優しかった。日本人と分け隔てがなかったように記憶する。

「反抗的な思いの気晴らしに、短歌を詠み始めた。転学した中学校では、それほどひどくはなかった。師範学校は大和魂を鍛えようとしたのでしょうか」

台北大学予科に進むと次は学徒出陣が待っていた。台北の西方にある桃園の飛行場と周辺の整備。蛸壺のような穴のトーチカを掘った。頭上を襲った米軍グラマン機の弾丸が鉄兜に当たり、強度の難聴の後遺症に悩む。

・戦傷後補聴器に頼るこの我を「馬鹿を見たね」と若きらの云ふ

「戦後になると、今度は日本兵として祖国に銃を向けたと国民党政府から逮捕された知人がいる」と嘆く。

「久松先生」とは、日本統治が終わり先生が岡山県内に帰ってからも交流を続け、日本の多くの短歌誌を知るよるべとなった。

教師とのよき出会いは、台北歌壇創始者の医師、呉建堂さん（七二）＝台北市＝にもあった。その出会いが、多くの「台湾万葉集」の人々を育てることになった。

旧制台北高校の一年生。犬養孝・阪大名誉教授が、まだ若き国文教師として赴任してきた。前列に陣取り、名調子の万葉講義を食い入るように聞いた。

「いきなり万葉の和歌を朗詠されました。変わった教え方でした」

戦後に書きためた短歌を個人歌集にしたところ、同好の士が次々現れた。一九六八年、歌誌『台北歌壇』を創刊。省立宜蘭、花蓮など大病院の院長職の医務のあと、毎月送られてくる短歌に、添削の筆を入れる日々が続いた。集まった歌を台湾で出し、次いで九四年、日本で『台湾万葉集』として刊行。予想以上の話題を呼び、九六年菊池寛賞を受けた。

「天平の万葉人には、下積みの生活をそのままうたった歌が多い。戦前・戦後百年の台湾人の気持ちと似ており、万葉集と名付けた」

一九九八年、心筋梗塞で倒れて二週間、意識不明となった。何かをつぶやいているのに末弟の呉建民さん（六三）が気付いた。口元に耳を寄せると、切れ切れに短歌を詠じていた。書き取ると「生の身は半身不随に悩むとも短歌はやめじと投稿続く」だった。快方に向かって、今は自宅療養中だ。

「子供たちは日本語を解さない。私たちの世代が亡くなったら台湾の短歌は滅びるでしょう」。遠くを見る目になった。

強く台湾を愛しながらも、日本語で見聞きし、考えた青春を、積極的に何かに結実させようとする人たち。こうした創作を台湾の文化ジャンルの一つとして定着させようとする人たちもいる。が、外国語として日本語を身につけた若い世代に、まだ短歌は広がっていない。

（音谷健郎『文学の力』二〇〇四年、より）

一　傍線部の短歌「その昔　吾を兵にせし　国に来て　親しみ覚ゆる　不思議を思う」には作者のどのような気持ちが込められていると思いますか。二百字以内で書きなさい。

二　母語以外の言語で文章を書くことの困難と利点について、あなた自身の経験を交えて、六百字以内で書きなさい。

令和2年度　お茶の水女子大学　文教育学部

推薦入試　帰国子女・外国学校出身者特別入試　高大連携特別入試　試験問題

言語文化学科（英語圏言語文化プログラム）

次の設問に英語で答えなさい。答えは答案用紙に記入しなさい。

Some people say that it is sometimes better not to tell the truth. What do you think? Write an essay giving specific reasons and examples.

令和2年度　お茶の水女子大学　文教育学部
推薦入試　帰国子女・外国学校出身者特別入試　高大連携特別入試　試験問題
言語文化学科（仏語圏言語文化プログラム）

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

［前略］一つの文化の単位を国境によってくぎることが可能であろうか。パリの文化はフランスのブルターニュ地方やマッシフ・サントラル地方の農民の文化よりも、むしろロンドンやニューヨークの文化に近いし、同じパリであっても知識人の生活と労働者の生活の違いは大きい。しかもパリ在住の知識人にしても労働者にしても、かなり大きな部分を外国人や移民が占めており、それらの異質な要素を排除すれば、フランスの社会そのものが崩壊するであろう。都市と農村の文化的な差異は別としても、フランスの地方にはパリと異なったさまざまな異質な文化が存在している。フランスは人種の混合体であって、特定の人種の特徴からフランス文化を論じることはできない。フランス語は一つの目安となるだろう。だが十九世紀のなかばころには、まだフランスの地方の住民の半数はそれぞれの方言を用いていて、いわゆるフランス語が使えなかったことを忘れてはならないだろう。それにこの場合、海外諸県や海外領土、カナダ、スイス、ベルギーあるいはアフリカにおけるフランス語圏の文化との関係をどのように考えればよいのであろうか。たとえばカナダのケベック州の文化は、フランス語を話す住民による文化の、フランスとは異なったもう一つの可能性を示している。

こうして単一不可分の共和国に見合った単一不可分の均質な「フランス文化」の存在は一種の神話であり、中央集権的なイデオロギーの生み出した一つの幻想にすぎないのではないか、という疑いが強くなる。だがここで注意すべきは、かりにそれが幻想にすぎないとしても、そのような幻想自体もまたすでにフランス的な文化の特徴的な一側面をなしているということである。現在フランスとよばれている国の文化の特徴を観察するためには、文化を変化の相のもとにとらえて、その多様性と普遍性に注目しつつ、対立と葛藤、そして局地的な均衡と調和を繰り返しながら形成されつつあるダイナミックな文化のモデルを考える必要があるだろう。

（西川長夫『フランスの解体？――もうひとつの国民国家論』による）

［問一］　傍線部の「神話」であり「幻想」であるとはどういうことか、自分のことばで二百字以内で説明しなさい。

［問二］　右の文章で述べられている筆者の主張を踏まえた上で、フランスの文化を学ぶことの意義について自分の考えを六百字以内で述べなさい。

令和２年度　お茶の水女子大学　文教育学部

推薦入試　帰国子女・外国学校出身者特別入試　高大連携特別入試　試験問題

人間社会科学科（教育科学）

＜注意事項＞

１　監督者の指示があるまで、解答を開始しないこと。

２　試験問題は、この表紙を含めて合計４ページあります。

３　答案用紙は、合計２枚を使用すること。

　　問１　１枚

　　問２　１枚

４　試験問題および下書き用紙は、持ち帰ること。

問１　次の英文を読んで、（１）～（２）に日本語で答えなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

（出典）Chung, F. (1996) Education in Africa today, in *Learning: The Treasure within*, UNESCO Publishing より、一部改変

（１）下線部①、②を日本語に訳しなさい。
（２）著者は、東アジアとアフリカの違いについてどのように論じているか、本文に即して、５行以上 10 行以内で説明しなさい。

問２　次の文章を読んで、（１）および（２）の設問に答えなさい。

2015 年の学校教育法施行規則（文部科学省令）と学習指導要領（文部科学省告示）の一部改正に基づいて、2018 年度から小学校で、19 年度から中学校で「特別の教科である道徳」がスタートした。19 年に全部改正されて告示された小学校の学習指導要領の「第１章　総則」には次のような記載がある。

> 学校における道徳教育は，特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり，道徳科はもとより，各教科，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて，児童の発達の段階を考慮して，適切な指導を行うこと。

道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うことを前提にしつつも、「特別の教科である道徳」においても集中的に行うことになっている。道徳が「特別の教科」とされているのはこのことと大きく関連している。そして、学校の教育活動全体を通じて行う以上、すべての教員が担当者となることから、教科担任制を採用している中学校においても、「特別の教科である道徳」の教員免許状は設定されていない。基本的には学級担任が行うことになっている。

ところで、道徳は、1958 年の学校教育法施行規則と学習指導要領から「道徳の時間」として設定されてきた。「特別の教科」になる直前の 2008 年の小学校学習指導要領の「第３章　道徳」の「第３　指導計画の作成と内容の取扱い」には次のような記述があった。

> 各学校においては，各学年を通じて自立心や自律性，自他の生命を尊重する心を育てることに配慮するとともに，児童の発達の段階や特性等を踏まえ，指導内容の重点化を図ること。特に低学年ではあいさつなどの基本的な生活習慣，社会生活上のきまりを身に付け，善悪を判断し，人間としてしてはならないことをしないこと，中学年では集団や社会のきまりを守り，身近な人々と協力し助け合う態度を身に付けること，高学年では法やきまりの意義を理解すること，相手の立場を理解し，支え合う態度を身に付けること，集団における役割と責任を果たすこと，国家・社会の一員としての自覚をもつことなどに配慮し，児童や学校の実態に応じた指導を行うよう工夫すること。また，高学年においては，悩みや葛藤（かっとう）等の心の揺れ，人間関係の理解等の課題を積極的に取り上げ，自己の生き方についての考えを一層深められるよう指導を工夫すること。

ところが、「特別の教科である道徳」になってからの 2019 年の小学校学習指導要領の「第３章　特別の教科　道徳」の「第３　指導計画の作成と内容の取扱い」では、上記のような記載は消滅し、「第２　内容」で列挙した内容※をすべて取り上げるとしつつ、次のような留意を求めている。

3　教材については，次の事項に留意するものとする。

(1)　児童の発達の段階や特性，地域の実情等を考慮し，多様な教材の活用に努めること。特に，生命の尊厳，自然，伝統と文化，先人の伝記，スポーツ，情報化への対応等の現代的な課題などを題材とし，児童が問題意識をもって多面的・多角的に考えたり，感動を覚えたりするような充実した教材の開発や活用を行うこと。

(2)　教材については，教育基本法や学校教育法その他の法令に従い，次の観点に照らし適切と判断されるものであること。

ア　児童の発達の段階に即し，ねらいを達成するのにふさわしいものであること。

イ　人間尊重の精神にかなうものであって，悩みや葛藤等の心の揺れ，人間関係の理解等の課題も含め，児童が深く考えることができ，人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられるものであること。

ウ　多様な見方や考え方のできる事柄を取り扱う場合には，特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないものであること。

多面的・多角的に考える教材を用いること、特定の見方や考え方に偏った取り扱いがなされていない事柄を扱うこと、といった留意事項は、2008 年の指導要領には書かれていない。

ところで、「教科」という語は、教育内容となる知識や技術を組織、編成したもの、といった意味の言葉として使われる。教科には教えるべき知識や技術があり、それが教科書等の教材を媒介にして児童生徒に教授される。ところが、道徳教育の場合、「時間」から「特別の教科」になったにもかかわらず、むしろ「教科」としての性格がはっきりしなくなったと言えないだろうか。

※「第２　内容」には善悪の判断，自律，自由と責任等の「Ａ　主として自分自身に関すること」、親切、思いやり等の「Ｂ　主として人との関わりに関すること」、規則の尊重等の「Ｃ　主として集団や社会との関わりに関すること」、生命の尊さ等の「Ｄ　主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること」が列挙されている。

(1) この文章の最後に、「道徳の時間」よりも「特別の教科である道徳」の方が教科らしくないのではないかという趣旨の指摘がなされているが、上記の文章から、そのような疑念が生じた要因を読み取って 3 行以内で説明しなさい。

(2) 「特別の教科である道徳」においては、考え方や見方の多面性、多角性が重視されている。道徳教育において考え方や見方の多面性、多角性を重視することについて、あなたの考えを 5 行以上 7 行以内で述べなさい。

令和２年度　お茶の水女子大学　文教育学部
高大連携特別入試　試験問題
人間社会科学科（社会学プログラム）

解答は答案用紙に記入すること

問．日本社会における女性の働き方の変化に関連した社会現象の中であなたが現在関心を持っているものを一つ取り上げて，社会学的な観点から論じなさい。

令和2年度　お茶の水女子大学　文教育学部

推薦入試　帰国子女・外国学校出身者特別入試　高大連携特別入試　試験問題

人間社会科学科（子ども学プログラム）

＜注意事項＞

1　監督者の指示があるまで、解答を開始しないこと。

2　試験問題は、この表紙を含めて合計3ページある。

3　答案用紙は、合計2枚を使用すること。

問題1　　1枚

問題2　　1枚

4　試験問題および下書き用紙は、持ち帰ること。

問題１　次の英文を読み、各設問に答えなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

出典）Mayeroff, M. (1990) *On Caring*. New York: Harper Perennial.

問１　下線部（１）を訳しなさい。

問２　下線部（２）を訳しなさい。

問３　英文全体の内容を踏まえて、あなたの考えを述べなさい。(400 字以内)

問題２　次の文章を読み、各設問に答えなさい。

子どもにとっては、生活のすべてが遊びの対象です。草木遊びにしても、花が咲けば花で遊び、ない時には草で遊ぶ、枯草があれば枯草遊びなので、これがなければ遊べないということはありません。カヤツリグサがなければそれに似たサンカクイなどで遊ぶ。雑草すべてに遊びがあり、一つの雑草に幾種類もの遊びがあります。だから、チカラシバではこう作れる、エノコログサではこう、カヤでは、ススキでは、というようなものではなく、何で作っても良いのです。これが草木遊びの真髄と思います。草花での色遊びも、朝顔やオシロイバナでないとできないのではありません。草木遊びを子どもの視点からとらえると、非常に多くのものになる。出版物として草木遊びを紹介する時には、できあがりがきれいな物を選ばざるを得ないこともあるでしょうが、草木遊びの実態はそうせまいものではないと思われます。

同じことは鬼ごっこにもいえます。石ころも、木も、場所の高低も利用できます。廊下だろうと階段だろうと、エレベーター内、ホテル、駅、場所を選ばない。叱られるかどうかは別として電車の中でもできる。条件、状況によって遊びを作っていきます。これらは子どもの意欲の表れであると、ただそう見ていれば良いのですが、良い遊びと悪い遊びとに分けて大人が指導するとなると邪道になりかねません(1)。

子どもの遊びにはかならずハンディがつきます。鬼ごっこの場合でも、鬼にハンディがつくこともあれば、追う鬼と逃げる者の両方にハンディをつけることもある。そのつけ方は千差万別で、高い所へ登れとか、何をしろとか、ありとあらゆる状況に応じてついています。子どもといっても力に差があり、特長に違いがあるので、その差を克服していっしょに遊ぶにはどうしたら良いのかを追求していった結果、二千種類くらいの鬼ごっこ遊びを生み出すようになりました。二千の鬼遊びを一人の子どもがやるわけではないけれど、人数が多くても少なくても、年長でも年少でも、山があってもなくてもどこででもできるようにするために、鬼ごっこだけでもそれだけの種類を生み出したわけです。他の遊びもそうです。大人にたよって作られていったのではなく、子どもという生き物が、自分たちで考えてきたのです。鬼ごっこ遊びを節分の豆まきの行事の「鬼やらい」から来たという大人の見方もあるけれども、「鬼やらい」をやろうと考えて「鬼ごっこ」をやるのは、子どもの発想でも立場でもないことがわかります。

大人は、ゴルフなどではハンディをつけて参加者の力を均等化しますけれど、それには限界があります。子どもの遊びの世界では、能力的にゼロに近い小さな子までまきこんで参加者全員で楽しむよう、それでいて能力ゼロの子が、うんと能力のある者にスポイルされないようにしています。大人だと、何のかんのと言いながら最後は勝負ですよね。利益とかプライドとかもちらついてくる。子どもの遊びではお互いが楽しくなければやめてしまいます。それが目的ですから、単純なんですね。そして子どもは良く言えば柔軟性があるけれども、悪く言えばルールはあってなきがごとく臨機応変に、その場で適当に「それはダメー」と言って新しいルールを決めてしまう。口をとんがらせて言い合いながら、結局ともに楽しんでしまう。また、そうでなきゃ遊びは成立しないのです。

子どもの遊びの中には、公開できないようなものもあります。しかしそれをやったからといって、子どもが変になってしまうというようなことはありません。大人の場合はこの遊びがいいとなると、そのスタイルを守らせようとする。だから遊びに変化も深みも面白さも出てこない。子どもの特性を認めてやらなくてはいけないのに、男の子ならこの遊び、女の子はこちらの遊びというように割りふって性別でも決めてしまう。間違いや失敗を犯すのが子ども時代(2)だし、それを遊びの中でやっている限り問題はないし、その試行錯誤の中からそれぞれに合った遊びのスタイルと多様性が生まれてくるのです。そのようなことを子ども達は示してくれたし、そのフィールドでの経験が、私の絵本作りの方法論にもなっていったと思います。

出典）加古里子（1999）『加古里子 絵本への道――遊びの世界から科学の絵本へ――』福音館書店より、一部改変。

問１　子どもの遊びについて、筆者が下線部（１）に記すように考える理由を、本文中の内容に即し、「遊びの真髄」という語を用いて説明しなさい。(300 字程度)

問２　下線部（２）について、あなたはどのように考えるか、理由を含めて論じなさい。(300 字程度)

令和2年度　お茶の水女子大学　文教育学部
推薦入試　帰国子女・外国学校出身者特別入試　試験問題
芸術・表現行動学科（舞踊教育学専修プログラム）

Ⅰ．ダンスの群舞作品の創作プロセスにおける課題の解決に必要な普遍性の高い知識について、想定される課題とその解決に必要な知識の例を挙げて説明しなさい。ここでいう知識とは、舞踊理論として指導されたもののみならず、創作や鑑賞の経験を通して得られている知識を含みます。（５０点）

Ⅱ．次の英文を読み、設問に答えなさい。

１）下線部を日本語に訳しなさい。（２０点）

２）本文から読み取ることのできる舞踊の技術の特徴について述べなさい。（３０点）

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

出典　Berardi, G. *Finding Balance*, Routledge, New York, 2005.　（一部改変）

令和2年度　お茶の水女子大学　文教育学部
推薦入試　帰国子女・外国学校出身者特別入試　高大連携特別入試　試験問題
芸術・表現行動学科（音楽表現専修プログラム）

問題　次の文章は、ヨーロッパの啓蒙主義と音楽について述べたものです。文章を読んで、下記の問いに答えなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

(Burkholder, J. P.; Grout, D. J.; Palisca, C. V., 2019, *A History of Western Music.* 10th Edition. New York; London: W.W. Norton & Company. より一部改変)

注1　galant style　ギャラント様式。18世紀の優美で軽快なロココ趣味の音楽様式。

問1　下線部（1）を日本語に訳してください。

問2　下線部（2）について、本文の内容に沿って、日本語で説明してください。

問3　下線部（3）のような議論は、音楽の価値を考える上で、今日でもさまざまに展開されています。現代日本の具体的な事例を用いて、あなたの考えを自由に論述してください。

(400字以上、500字以内)

令和2年度　お茶の水女子大学　文教育学部

高大連携特別入試　試験問題

人間社会科学科（グローバル文化学プログラム）

現代ではグローバル化にともなって人の移動が活発化していますが、なかでも女性の移動についてはどのようなことが問題になっていますか。あなたが知っている事例をとりあげ、どのような問題が起きているのかを説明するとともに、その問題についてのあなた自身の考えを述べなさい。